

# 資料渉猟余話

その83

村澤武夫編の『飯田の今昔家並帳』(光文堂 昭和29年)には宝暦2年(1752)から寛政9年(1791)・天保2年(1831)・明治23年(1890)・昭和20年頃(大火前・1947)の旧飯田市街地の家並が史料と聞き取りから記録されている。これに杉本愛一発行の昭和5年の「飯田市街商工業案内図」を重ねてみると、江戸後期から終戦頃までのおおまかな飯田市街の家並の変遷を追うことができる。

上記を見ると、宝暦2年から貧瀬側の知久町3丁目角には「編屋與兵衛」もしくは「樋口与兵衛」「樋口与平」

にはすでに後に樋口を名乗る與兵衛は知久町に居住していたようだ。

父藤治郎の死去(大正6年)に続き、祖父與平(大正12年)が没し、さらには伯父で、樋口家の嫡子・衆議院議員龍峽樋口秀雄の在職死去(昭和4)と不

正6年)に続き、祖父與平(大正12年)が没し、さらには伯父で、樋口家の嫡子・衆議院議員龍峽樋口秀雄の在職死去(昭和4)と不

## 黄眠先生が行く 14

### 知久三の樋口家

鳴 不 濁

幸が重なり、郷里にあつてその財産を管理していた龍峽の姉いし(日夏耿之介の母)も昭和5年には郷里の家屋敷財産を処分し上京している。にもかかわらず、大火前の家並帳に樋口与平の記載があるのは誤りであること

ようのないことで、嘉永4年(1851)に樋口家の菩提寺である柏心寺の本尊阿弥陀如来の天蓋が「樋口祖先代々施主」によって寄進されているのがその証左である。『柏心寺史』本文には「樋口與右衛門によって寄進された」とあるが、掲載さ

れた写真をよくみると「樋口與右衛門」の「右」の部分が欠損していて解読できない。併記された写真の法名「謙誓道居士」を手掛かりに、小林郊人著『後藤三右衛門』の樋口家系図を捜すと、嘉永3年に没した法名「謙誓教道居士」に行き当たる。これは6代與兵衛すなわち日夏の曾祖父にあたる樋口光寧のことである。『柏心寺史』の執筆者の誤説である。

もの、ユニ進出にあたって中央通りから撤退、諏訪町で小さな町で小さな割烹を続けていたが平成になって廃業した。知人が手に入れた旧蔵品の中には、焼けた太宰松の材で鈴木不倒が刻んだと思われる春臺主人と銘あざやかな篆刻額や鈴木春信や福与悦夫などの絵画に混じって、犬養木堂の書などもあった。それらが再び日の目をみないまま消え去ってしまうのも悲しいことだが、それはそれとして、く



太宰松に預けてあった樋口家什器所持の蓋

に日夏が早稲田の教授に就任し、法事のため10年ぶりに故郷を訪れた彼が早速口にしたものは飯田名物・太宰松の鰻だった。おかげで堆朱の湯浅光悦宅で出された少し早めの夕食には手が出せなかった。実は宿を出る時飯田の名物太宰松の鰻でひる飯を食べた。義理にも咽に這入らない」と恐縮する黄眠先生であった(堆朱翁の家)。